**○第５７回（令和５年１月２６日）評価委員会評価**

今年度の連携排砂は、８月２０日より実施の体制に入ったが、出し平ダムへの流入量が、中止基準流量を下回ったため、８月２１日に中止を決定した。

その後、連携排砂にいたる出洪水が発生しなかったため、９月１日に土砂変質進行抑制策を実施した。

◇土砂変質進行抑制策の実施結果について

これまで継続されてきた排砂の累積効果により底質の変質傾向が抑制・改善されてきたことから、今回の土砂変質進行抑制策前後における指標の変化は少なかったと考えられる。そのため、今回の土砂変質進行抑制策に対する明確な効果判定が困難となったが、底質調査結果は各指標において既往の観測値内であり、底質の変質が進行している状況ではないことが確認できた。

◇環境調査結果について

今回報告のあった、令和４年９月土砂変質進行抑制策および８月連携排砂（中止）に伴う環境調査結果から次の知見が得られた。

□水質調査について

・各指標は概ね既往の観測値と同程度であった。

□底質調査について

・各指標は概ね既往の観測値と同程度であった。

□水生生物調査について

・水生生物調査で確認された種数・個体数は概ね既往の変動の範囲内であった。

以上の水質、底質および水生生物の環境調査結果をみる限り、今年度の土砂変質進行抑制策及び排砂（中止）に伴い、環境指標の観測値に一時的な変動は認められるものの、周囲の環境に大きな影響を及ぼしたとは考えられない。



◇今後の留意点

・令和４年排砂期間を踏まえた今後の検討課題については、より自然に近いかたちでの連携排砂実施に向けて対応の検討を進め、関係団体と協議・調整を図っていくこと。

なお、土砂変質進行抑制策を実施した際には、その評価のため、引き続きデータ等の蓄積を行う必要がある。

以　上